

人権について

K・R

私には、先天的（生まれつき）な病気がありません。だから、人より多く水分を摂らなければいけなかったり、体育でできない種目があったりします。いつ入院するかも分かりません。しかし私は今まで、あまり病気の事で悩んだことがありません。反対に、気にしな過ぎず叱られることもありません。母が私が小さなころからこのように言っ

てくれていたからです。玲美が病気になったのは、玲美のせいでもないし、家族のせいでもない。病気になるのは誰のせいでもないんです。むしろ病気があっても一生懸命生きる人たちって、すごいと思いますよ。」

だから私は、今まで気にしたことがありません。

しかし、一つだけ嫌なことがあります。それは、障がい者や病気の人たちへの、悪意に

満ちた言葉です。悪口を言う人は、本人に向
かっては決して言いません。心のどこかで、
障がいを持った人たちに言っただけなら、見
分かっていていいのです。小さな子供たちは、見
たままのことを口に出します。それは、「な
んで違うの？」という気持ちから出ている言
葉です。しかし、中学生にもなれば、「なぜ
違うか」なんて、分かっていていいのです。結果
的には、二、三歳児と同じことを言っている
のですが、レベル的にはもっと低いと思いま
す。反対に障がい者や病気の人を必要以上に意
識する人もいます。気をつかいすぎて、やた
らかばったり、親切にしたりします。また、
目や耳や身体が不自由な子は、別の学校に行
ったりしています。その子供たちの安全を考え
てやっていることだとは思いますが、それも
ある意味、差別ではないかと思いました。命
に別状がない限り、一緒に過ごせないものか
と思います。私が通った保育所では、同じク

ラスに上手く歩けない子や言葉が上手くしゃべれない子がいました。でも、周りの皆はとも自然でした。先生方も友達も、必要以上にも過敏になったりかばったりはしませんでした。それが当たり前になっただけです。私は今、この保育所に通っていたことに感謝しています。小学校に上がって、障害を持つた子たちが同じクラスに一人もいないことの方が不自然ではないかと思えます。私の隣の席に、目が不自由な子や、車椅子の子が「当たり前前」のようにいるのが、一番自然ではないでしょう。そして、その隣の席の子を手助けするのは「当たり前前」のことなのです。それを「手助け」と思うこと自体、おかしいことですか。母はいつも言います。「玲美が病気のことで何か人に助けられて、やってももらえたことは「当たり前前」なんだけど、それを玲美は「当たり前前」だと思っただけいけないよ。感謝の気持ちをしっかり表そう

ね。」

私もそうだと思います。いくら人として、
へ当たり前〜のことをしたただけと言ってくれ
ても、助けてもらって迷惑をかけたのだから、
感謝の気持ちをしっかり行動や言葉に表した
いと思いません。実際に、行動で手助けしても
らっていないなくても、「大丈夫？」の言葉だけ
で、とても嬉しいものです。
今、私の目が見えなくなったら、どうなる
んだらう。：：。

今、あなたの耳が聞こえなくなったら、ど
うしますか？
きっと、考えがつかないほど、大変だと思
います。
しかし、ある目の不自由な方が言っていま
した。
「よく、目が見えなくて大変だね、かわいそ
う、と言われます。でも、私は、かわいそう
とか気の毒とか思っただけでほしくない。目が見え
なくなったら、楽しいことは沢山あるし、決し

て不幸なことではないから：：。」
私はこの時、大変でも楽しんで生きている
人はすごいと思います。私は病気を持っていて
いても、少し気をつければ良い程度です。そ
れでも、病院へ行くのが嫌だったり、面倒だ
ったりします。だから、体の不自由な人や重
い病気を持っている人は、尊敬される人だと
思います。そして、その「障がい者」も「健
常者」も同じ目線で生活できる社会になり、
「障がい者」・「健全者」という言葉の隔た

りもなく、なる日が来るといいです。
それから、障害者の人たちは決して、かわ
いそうでも、気の毒でも、不幸な人でもあり
ません。当たり前ですが、皆、同じ「人間」
なのです。